

令和 6 年度 食育推進状況調査結果報告

1 調査の目的

- ・ 食育推進ネットワーク加入施設で実施された食育活動について把握するとともに、今後の食育活動の方針を確認する資料とする

2 調査の内容

(1) 調査票

別紙 1

(2) 対象

熊本市こどもの食育推進ネットワーク加入施設 315 か所

(保育所 90 か所、幼稚園 24 か所、認定こども園 98 か所、地域型保育事業 56 か所、
認可外保育施設 27 か所、子育て支援センター 20 か所)

(3) 実施期間

令和 7 年 (2025 年) 3 月 3 日から 3 月 31 日まで

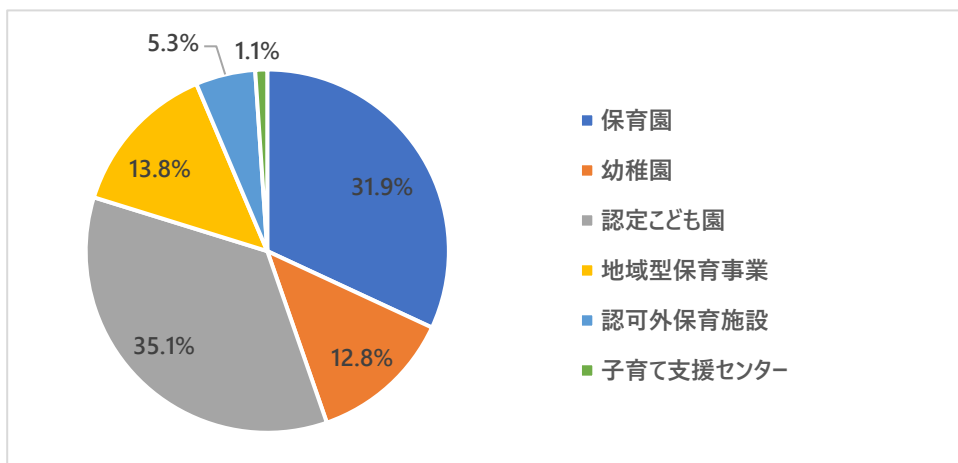
(4) 実施方法

Logo フォームで回答。

(5) 回収率

施設	配布数	回答数	回収率
保育園	90	30	33.3%
幼稚園	24	12	50.0%
認定こども園	98	33	33.7%
地域型保育事業	56	13	23.2%
認可外保育施設	27	5	18.5%
支援センター	20	1	5.0%
合計	315	94	29.8%

(6) 回答属性

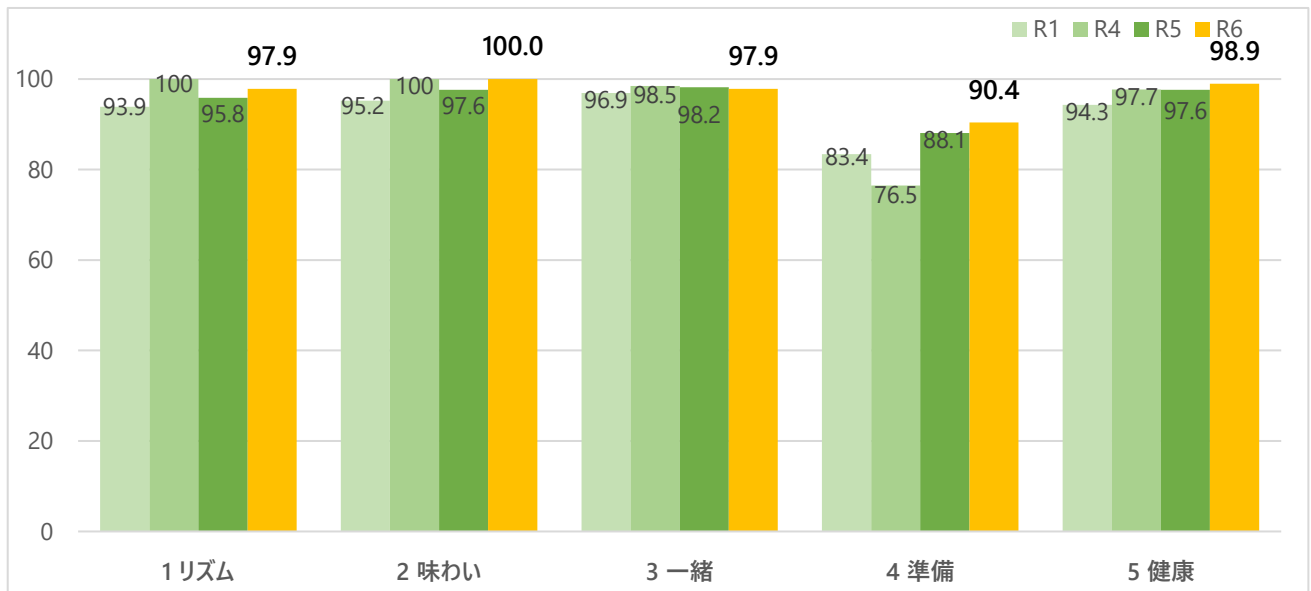


3 調査結果

(1) 「楽しく食えることにも」に成長していくための、「具体的な5つの目標」の取組状況

- ①食事のリズムがもてる ②食事を味わって食べる ③一緒に食べたい人がいる
④食事づくりや準備にかかわる ⑤食生活や健康に主体的にかかわる

- ・「①食事のリズムがもてる」の取組は、家庭での食育も含めた、規則的な生活リズムを整えるため「はやね・はやおき・朝ごはんカード」の取組等を通して、食事のリズムを持つ取組が実施されたものとする。
- ・「②食事を味わって食べる」の取組は100%実施していた。新型コロナウイルス感染症が5類移行し1年経ち、味わって食べるという指導ができたものと思われる。
- ・「食事づくりや準備にかかわる」の取組は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、給食当番やクッキング等の食育の取組が行われた結果と思われる。



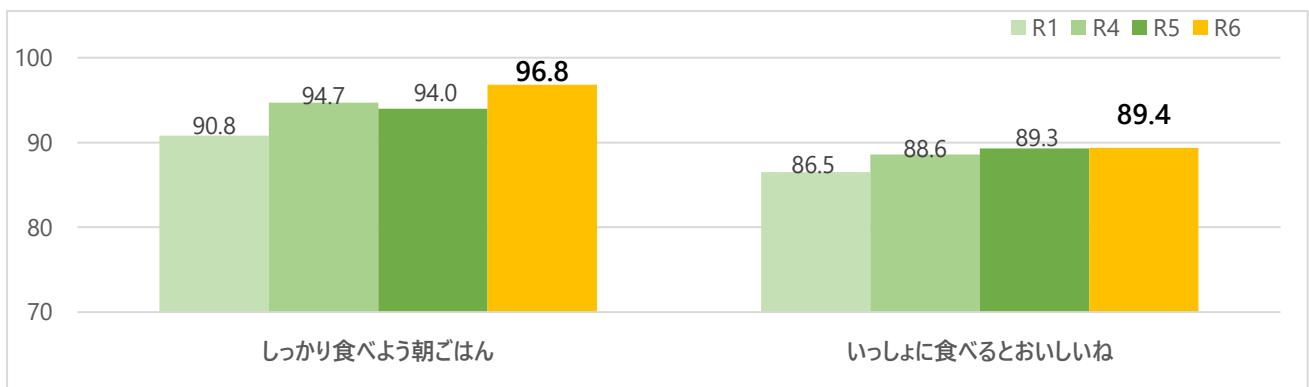
(2) 活動テーマの取組状況

テーマ1「しっかり食べよう朝ごはん（早寝・早起き・朝ごはん）」の啓発状況

- ・9割の施設で取組まれており、活動の定着がみられた。

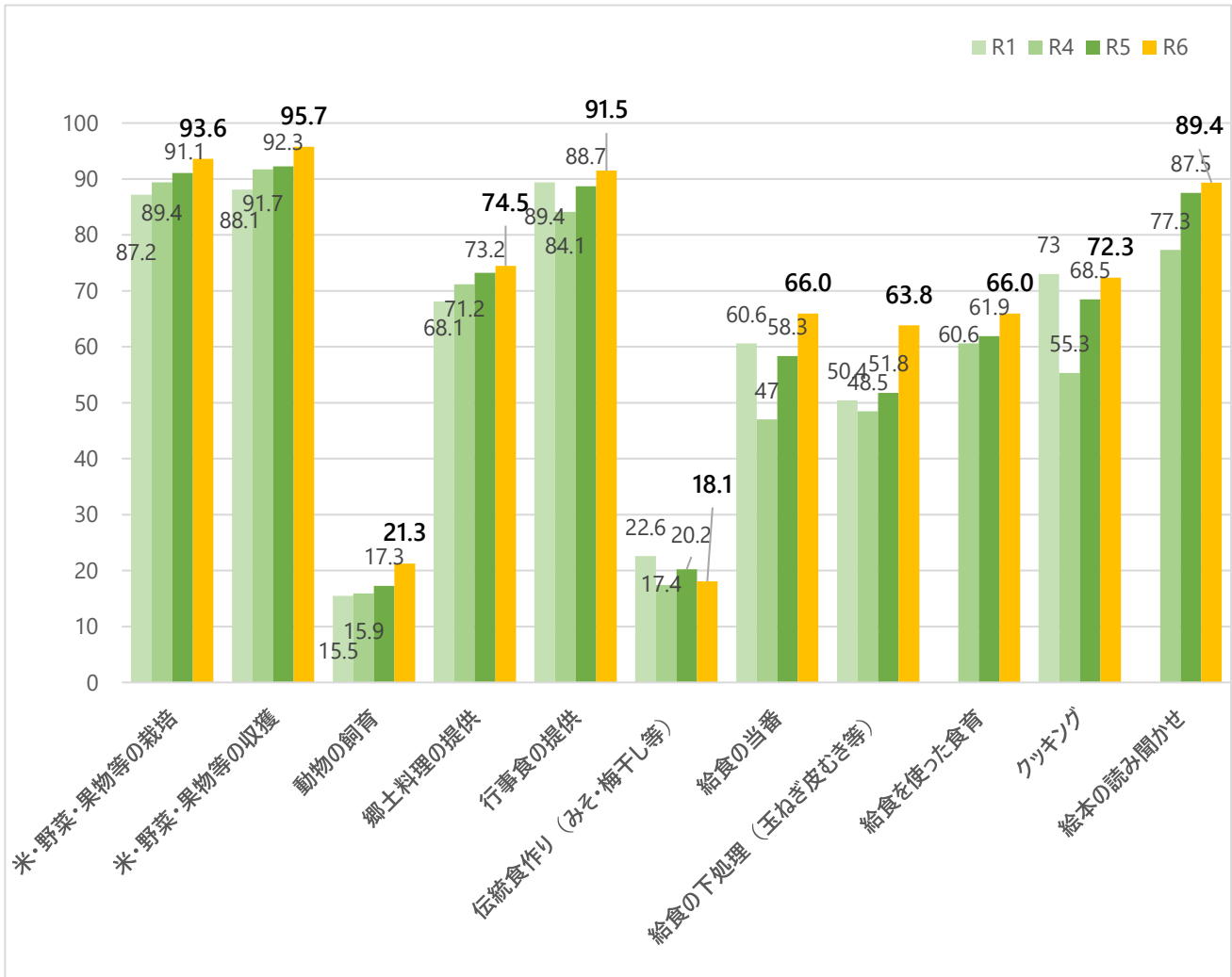
テーマ2「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の啓発状況

- ・共食については、微増傾向である。



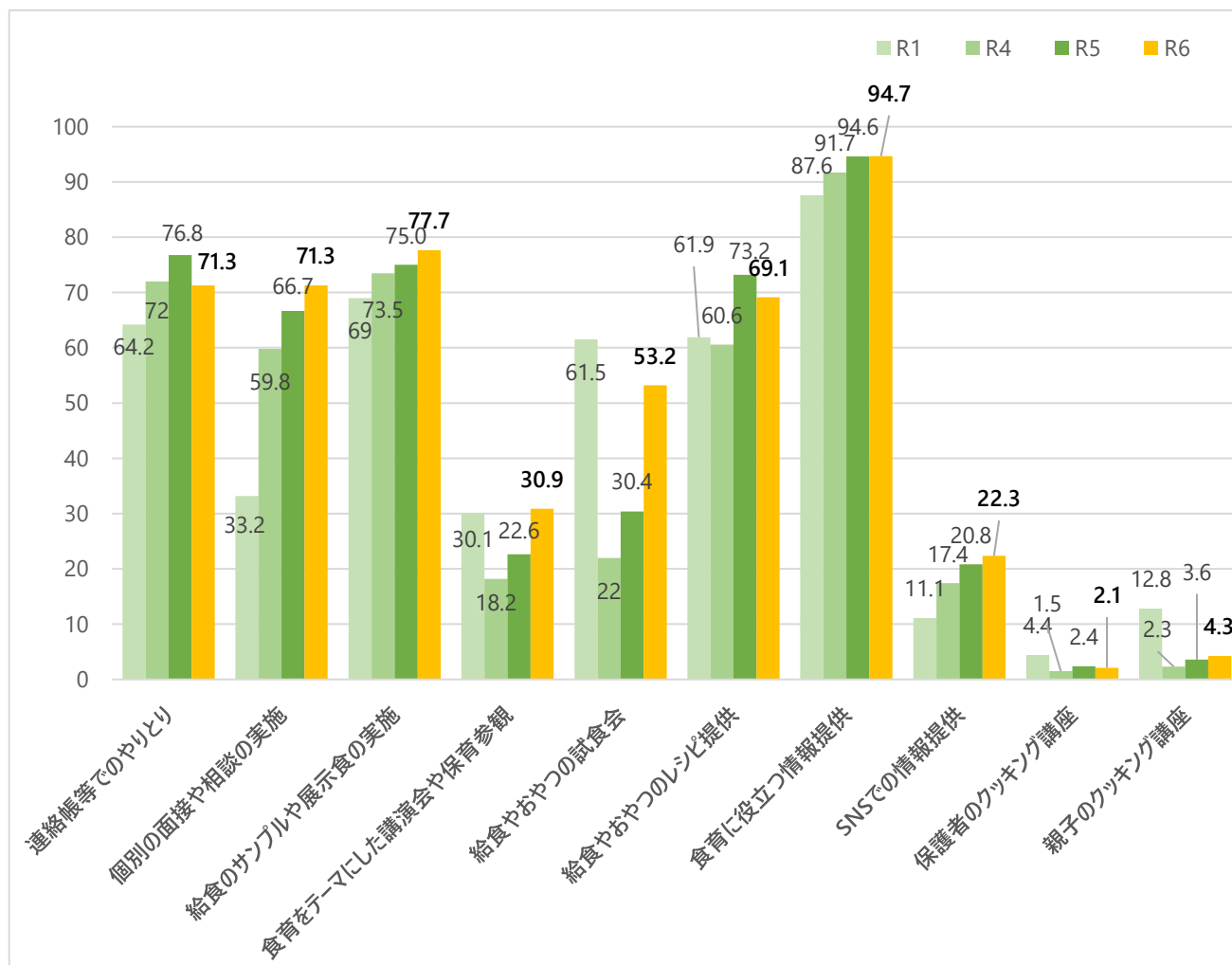
(3) こどもへの食育活動で実施しているもの

- ・ こどもへの食育で実施率の高いものは、令和 5 年度と同様、①米・野菜・果物の収穫、②米・野菜・果物の栽培、③行事食の提供の順であった。
- ・ 伝統食作り以外の取組にて、令和 5 年度よりも増加した。
- ・ コロナ禍により、調理活動を伴う食育について低下がみられていたが、「給食の下処理」については、令和 5 年度結果と比較し、12 ポイント増加した。

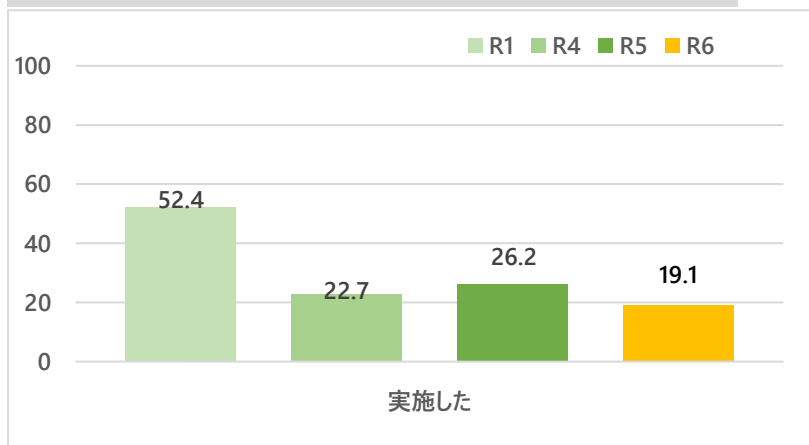


(4) 食を通した保護者への支援として実施しているもの

- ・ 保護者への支援として実施率の高いものは、①お便り等での食育情報提供、②給食のサンプル展示、③連絡帳等でのやりとり、個別の面接や相談の実施の順であった。
- ・ 保護者参加の、令和5年度まで「講演会や保育参観」は令和元年度の水準には達しなかったが、令和6年度は水準以上となった。他「給食やおやつ試食会」についても令和元年度の水準に近づいてきているなど、徐々にコロナ禍以前の取組が実施していることが考えられる。

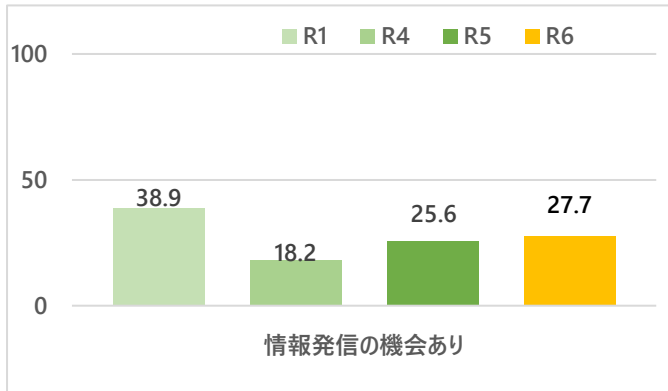


(5) 地域や団体等と連携した食育活動の実施の有無



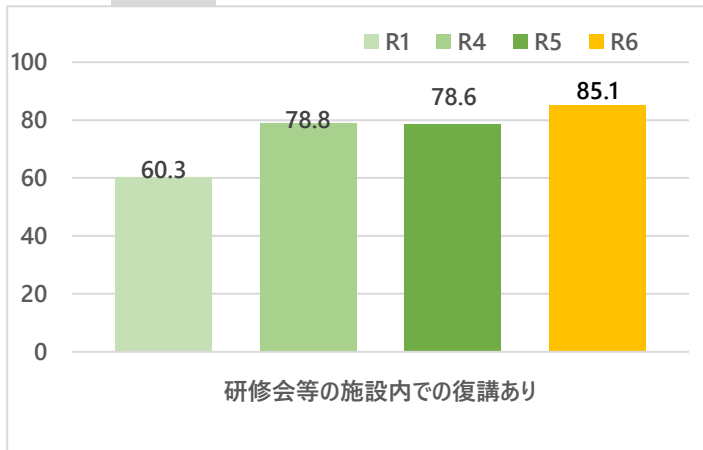
・実施率はコロナ前の半分程度になっている。

(6) 地域の未就園児童とその保護者への食育の実施や情報発信の機会の有無



・コロナ感染の影響から低下していたが、令和4年度以降、増加している。

(7) 食育推進ネットワークの地域研修会、全体研修会の内容について、施設内で復講を行っていますか



・年々、実施率が増加している。食育は、教育、保育と一緒に進めるものであるため、施設内での情報共有は今後も進めていただきたい。

4 考 察

- 1 「楽しく食べるこどもに」成長していくための5つの目標については、「食事づくりや準備に関わる」以外の目標は97%以上の実施率で、概ね取組ができていた。
新型コロナウイルス感染症も5類に移行して1年が経ち、コロナ禍以前に実施していた食事づくりや準備の体験活動等に取り組んでいることがうかがえる。
- 2 活動テーマ、「しっかり食べよう朝ごはん」の啓発については、家庭へ繰り返し伝え定着を図ることが重要である。生活リズムを整えることの重要性を引き続き継続して啓発していくことが重要である。
- 3 活動テーマ、「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の取組については、共食の実施が難しかったコロナ禍を経て、改めて「共食」の重要性について情報提供していく必要性を感じる。
- 4 郷土料理や行事食は食文化を伝えるうえで重要であり、持続可能な食に貢献することが期待されている。現在、低下、横ばい傾向にあるのでさらなる強化をしていく必要がある。